



新型コロナウイルス 感染症拡大に備えて

尚友会会長

岸本 大三郎

昨年十二月以降、中国湖北省武漢市において新型コロナウイルスに関連した肺炎の発生が報告されて以来、猛烈な勢いで全世界に拡大しており日本国内においても毎日、毎日、増え続ける感染者数が報道されています。今回特定された感染症(SARS-CoV-2)は二〇二〇年S(SARS-CoV)や二〇一一年S(MERS-CoV)と同じヒトコロナウイルスですが、未だその実体や治療方法は確定されておらず、既存薬の治療は開始していますが、新しい抗ウイルス薬、ワクチンの開発には一年以上を要するとも言われています。

例年であれば評議員会を開催し事業計画や行事予定を会員の皆様にお知らせする時期ですが二〇二〇年度は死に至るリスクもある肺炎の大規模な集団発生を防ぎ関係者の身を守ることを最優先課題として進めざるを得ないと考えています。皆様のご理解を頂きますようよろしくお願い申し上げます。評議員会は各評議員に委任状提出をお願いし尚友会役員中心の限定メンバーで開催致します。ホームカミングデー、忘年会は中止と致します。

今回の影響により中学卒業式は出席者の規模を縮小し短時間で実施されました。また、春休みの前に突然の休校ともなりましたが、先生方の創意工夫と迅速な準備により、生徒は自宅でタブレットを用いて普段通りの時間割で学習を進めていたと聞きました。金蘭千里学園の底力と学習システムの進歩には驚かされます。

在校生の皆さんが厳しい環境の中でも自分の目標に向かって元気に学習されることをお祈りするとともに会員の皆様におかれましても、どうぞ体調に十分お気を付けていただくようお願いいたします。



「ごあいさつ」

金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

尚友会の皆さま、新型コロナウイルスが猖獗を極めるなか、お健やかにお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

平素は、尚友会の皆さまには、法人の役員、学校医、キャリア教育の講師としてのご支援のみならず、後輩を見かけたときの懐かしさや若干不満の口ぶりやその他卒業生の情報を理事長室にお寄せいただくなど、変わらず本校教育に関心をお持ちいただき心強く感謝に堪えません。

令和二年四月七日、大阪にも緊急事態宣言が出され、皆さまご経験のあの入学式も延期しました。新入生は入学許可宣言を受けることなく、五月六日まで教育活動を楽しんできません。中一生徒、一八一名を迎えましたが、いまだ顔見ぬ新入生です。開学以来、樹齢五〇年を超える桜たちも新入生を迎えるべく頑張っていたのに残念な限りです。卒業生につきましては、一三九名が尚友会に入会しました。将来の進路につき、後輩たちにアドバイスをお願いしたいと思っています。また、尚友会のみなさまには、すでに六月のHome Coming Day、その一週間後の関東支部総会の中止も決定され、お目にかかる機会が減少しています。寂しい限りです。

理事長室から桜を眺め、授業開始のチャイムもなし、生徒の声もなし、ワードを打っています。生徒がいません、お父さん、お母さんともお逢いできない、卒業生とも顔を合わせる機会も減少、まったく学校の体をなしていません。学校は、人と人の絆、Communicationを生みだし育てる環境です。目下、本校自慢のマンパワーによりこの緊急事態に取り組んでいます。その努力が保護者の皆さま、生徒の皆さんからの信頼を醸成していると信じています。

私は、卒業生の皆さまが自分の受けた教育に誇りを持っているのだための一つに、本学園が私立学校教育のオピニオンリーダーとしての役割を果たさなければならぬこともあると思っています。みなさまのご支援とご協力をお願い申し上げます。



「石の上にも三年」

金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

校長職を拝命し、三年目となります。ルーティーンをこなすのには少し慣れてきたように感じています。今後本校の発展のために微力を尽くす所存ですので、どうぞご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。さて、尚友会の皆様には、日頃より本校のためにお力添えをいただき、有難く厚く御礼申し上げます。私は、母校へ舞い戻って早三十六年目となりました。ご存じのように、独自の教育を行う古き良き金蘭千里から、イギリス海外研修、外務省現役外交官講演、アメリカ総領事館講演、ファミリーコンサート、校外学習など諸行事の導入を経て、創立五十周年改革として、新制服の制定、クラブの大幅増設、文化祭・体育祭の充実、キャンプ・自然研修の充実などを行い、生徒の活躍の場が増え、学校がより活性化したように感じています。

昨年度の新たな試みとして、進路指導部で本校の六年間を見直し、諸テストの追加、整理を実施しました。次に、中三・高一の英数習熟度別クラスの講座編成について、学期ごとのメンバー入れ替えを実施しました。当該学年からは、生徒の中に新たな刺激が生まれ、一定の効果があつたとの報告がありました。また、定期的な教科会議においては、授業力向上のために教員間での議論や教員間相互の授業見学、カリキュラム等についての検討が行われ、教員間での意思の疎通や問題意識の共有がより深まったと言えます。さらに、高二以下の生徒全員にiPadが導入され、少しずつ有効活用が進みました。今回の新型コロナウイルス感染症対策としての休校要請にも、iPadで上手く対応できたのですが、これについては別頁をご覧ください。今年度も、教育内容のより一層の充実を図って参ります。